

## 20章 帝国主義

### 問題

【1】

#### 解答

- 問1 1 e 2 j 3 h 4 g 5 k 6 a 7 o 8 l  
9 r 10 i 11 n 12 p
- 問2 イ a ロ d ハ i ニ j ホ h
- 問3 a 第2次産業 b 独占資本（主義） c 金融資本 d 帝国主義  
e ウラービー
- 問4 A アフリカ横断 B アフリカ縦断 C 3C
- 問5 あ ファショダ い カイロ う ケープタウン え カルカッタ  
お アドワ

#### 解説

帝国主義の発生過程と、これに基づく西欧列強の世界分割について大きな流れをまとめた問題。良問なので、しっかりと問題文を読みテーマを把握すること。設問はどれも空欄補充形式であるが、1～12には適切な語句を、イ～ホには適当な年代を選び、a～e、A～C、あ～おについては適当な語句を記入するなど、選択・記述形式が同じ問題文の中に混在しているので注意が必要だ。以下ではリード文の流れに沿っての上から下へ、それぞれの空欄に当てはまるものに解説を付す形式をとる。

- 1 イギリスから始まった産業革命は諸国へ普及していくが、問題文から考えると、ここには「ヨーロッパ大陸」以外でありながら、「日本」ではない国家が当てはまり、しかもリード文最後部でリベリア共和国に関連があることがわかるので、この国の建国に関わっているアメリカ（合衆国）が正解。
- 2・a イギリスで軽工業を中心に起こった産業革命を第1次とするところから、重化学工業を中心とする産業革命は第2次産業革命と呼ばれる。この第2次産業革命は合衆国とドイツで主に発展した。
- イ 1873年にウィーンで起こった金融恐慌はヨーロッパ中に広がり、79年にドイツが保護関税法を定めたことに代表されるように、イギリスを除く西欧諸国は自由貿易から保護貿易へと体制を移行した。このことがやがて帝国主義へつながってゆく。
- b 「カルテル」や「トラスト」とはどのような形態か、自分なりにまとめておこう。
- c 「大銀行」が「大企業」に莫大な資本を融資し、銀行資本と産業資本が結合されて形成されるのは「金融資本」である。
- d この空欄に統いて植民地の重要性と世界分割に関する説明が付されている。このような経済的・政治的な特徴を持つ国家の方向性を「帝国主義」という。
- 3～6・ハ・A・B・あ アフリカ政策でサハラ砂漠を横断するアフリカ横断政策を探ったの

はフランスである。これに対してアフリカ南端のケープ植民地と北アフリカのエジプト（カイロ）を結ぶアフリカ縦断政策を採ったのはイギリスである。両国は1898年にスーダンのファショダで衝突した（ファショダ事件）。ここで譲歩したフランスが、イギリスと結んでドイツに対抗したのが1904年の英仏協商である。そして日露戦争後に東アジアでの対立が解消し、1907年に結ばれた英露協商で三国協商が成立し、第一次世界大戦における協商国となる。

e・ロ アフリカ縦断政策を採るイギリスに対する民族的抵抗運動として、1881年にスーダンでマフディー派の抵抗（マフディーの反乱）が勃発した。これはマフディー（救世主）を自称するムハンマド＝アフマドが神権的イスラーム国家の樹立をめざしたもので、イギリスは1898年になってやっとこれを鎮圧した。同じく1881年にエジプトで起こった民族的運動であるウラービーの反乱が翌82年にイギリスによって鎮圧され、エジプトが事実上のイギリスの保護国となったのとは対照的である。

7～9・ニ ケープ植民地相セシル＝ローズ（任1890～96）は、南アフリカにおいて積極的に帝国主義政策を進めていった。元来、1652年にケープ植民地を築いたのはオランダの東インド会社であり、ここに移住してきたオランダ人は混血してブル人と呼ばれた。ナポレオン戦争でイギリスはケープタウンを占領し、ウィーン会議で正式にこの地を獲得したが、これに不満を持ったブル人たちが奥地に移動して築いたのがオレンジ自由国とトランスヴァール共和国だった。この両国でダイヤモンドと金が発見されたために、イギリスは両国を植民地として欲した。イギリス本国の植民地相ジョゼフ＝チェンバレン（任1895～1903）は、1899年に南アフリカ戦争を開始し、1902年、ようやくこれに勝利した。

い～え・C イギリスは北アフリカのカイロと南アフリカのケープタウン、そしてインドのカルカッタを結ぶ3C政策を展開した。これに対抗したドイツはベルリン・ビザンティウム（イスタンブルの古名）・バグダードを結ぶ3B政策を展開する。

ホ・お・10～12 まず11と12には“列強による分割を免れたアフリカの国家名”が入るので、これに当てはまるのはエチオピア帝国とリベリア共和国しかない。リベリア共和国は合衆国から解放奴隸が移住して建国した国家であるから12に当てはまる。すると11に入るのがエチオピアとなる。エチオピア進出を企んだのはイタリアなので、10に入るのはイタリア。イタリアは1895年からエチオピアに侵入していたが、96年のアドワの戦いでエチオピアが勝利し、イタリアの侵入をはね返した。なお、アドワとはエチオピア北部の町の名である。

## 【2】

### 解答

設問1 3 設問2 3 設問3 4 設問4 3 設問5 4 設問6 1  
設問7 4 設問8 4 設問9 2

### 解説

早稲田にしては基本的な問題、早大志望者は全問正解が望まれる。

設問1 1 産業革命は18世紀後半のイギリスに始まり、1830年にはベルギー・フランスへと拡大した。第1次産業革命はイギリスの木綿工業、ベルギーの毛織物工業に代表される織

維産業などの軽工業が中心であり、動力源は蒸気力・石炭であった。第2次産業革命は鉄鋼・電機・化学・通信などの重化学工業が中心で、動力源は石油・電力である。但し、一概に「第1次産業革命…繊維産業=軽工業」とはできない。ナイロンなど石油由来の合成繊維は20世紀に発明・実用化されたものであるので、注意してほしい。

2 独占資本のトラストが発達したのは合衆国で、代表的なトラストはロックフェラー、カーネギー、モルガンである。一方、ドイツで発達したのはコンツェルンで、“死の商人”で有名なクルップが代表例である。日本の財閥もコンツェルンの典型である。

4 『資本主義の最高段階としての帝国主義（帝国主義論）』はレーニンの著書。

設問2 1 クリミア戦争の終結はロンドン条約ではなくパリ条約で、ドナウ川の航行の自由、黒海の中立化などを定め、これによりロシアの南下が挫折した。近代化の遅れを痛感したロシア皇帝アレクサンドル2世（位1855～81）は、1861年に農奴解放令を発布する。

2 ボスニアはカトリックではなくギリシア正教である。

4 オーストリアはパン＝スラヴ主義ではなくパン＝ゲルマン主義。パン＝スラヴ主義はロシアが提唱した。一方、セルビアは、近隣のスラヴ系民族をすべてセルビア王国の下に統合しようとする大セルビア主義を標榜した。

設問3 カーナティック戦争は1744～61年、マラーター戦争は1775～82、1803～05、17～18年、プラッシーの戦いは1757年、シク戦争は1845～46、48～49年、マイソール戦争は1767～69、80～84、90～92、99年、シパーイーの反乱は1857～59年。

設問4 ファショダはコンゴではなくスーザンに位置する。

設問5 常識問題。正式な国名それぞれはエチオピア帝国とリベリア共和国。エチオピア帝国の前身がアクスム王国。リベリア共和国は合衆国の解放奴隸の国であり、1847年に独立を宣言。首都はモンロヴィア。地図で両国を確認しておくこと。とくにリベリア共和国は2006年1月にアフリカ初の選挙による女性大統領ジョンソン＝サーリーフが誕生したことでも要注目。

設問6 ジーメンス（独）は電気機関車、ダイムラー（独）はガソリン機関・ガソリン自動車の実用化に成功、ベル（米）は1876年に電話機を発明、マルコーニ（伊）は1895年に無線電信を発明した。エディソン（米）は1878年に白熱電球を発明、世界最大の電機メーカーGE（ゼネラル＝エレクトリック社）の前身を設立した。1876年に蓄音機、93年には映画など、数々の実用品を発明。ノーベル（スウェーデン）は1867年にニトログリセリンを利用してダイナマイト（無煙火薬）の製造に成功した。ディーゼル（独）は1897年にディーゼル機関を発明した。

2 リヴィングストンは合衆国のスタンリーとともにアフリカ探検で有名なイギリスの宣教師。フランクリンは18世紀の合衆国の政治家・科学者で、避雷針を考案した。

3 タスマンは17世紀にタスマニア島、ニュージーランドなどを発見したオランダ人。ファンボルトはナポレオン時代にプロイセンの教育改革を行い、ベルリン大学を創設した。

4 カートライトは1785年に力織機を発明した。

設問7 1863年のロシアに対するポーランドの独立反乱が失敗に終わったことを受け、64年に第1インターナショナル（国際労働者協会）がマルクスを中心にロンドンで結成された。無政府主義者のブルードン、バクーニンらと論争・対立し、パリ＝コミューンを支持した

ことから各国政府に弾圧され、1876年のフィラデルフィア大会で解散した。第2インターナショナルはフランス革命100年を記念し、パリで1889年に欧米19カ国の社会主義政党・労働組合の代表によって結成され、ドイツ社会民主党が主導的地位を占めた。マルクス主義の考えが主流となり、無政府主義は排除された。帝国主義戦争に対しては反対の立場を取っていたが、第一次世界大戦直前には、各国の社会党は次第に防衛戦争を肯定し自国政府の政策を支持するようになり、解体へと至った。

- 1 サンディカリズムは労働組合の直接行動による革命をめざし、議会主義を否定する思想。
- 2 ラサール中心の全ドイツ労働者協会とベーベル中心の社会民主労働者党は1875年にゴータ綱領を採択し、ドイツ社会主義労働者党を結成したが、1878年の社会主義者鎮圧法で非合法化された。ドイツ社会民主党は、1890年の社会主義者鎮圧法の廃止後、ドイツ社会主義労働者党が改称して再結成された。1891年にカウツキーを中心にマルクス主義的なエルフルト綱領を採択したが、ベルンシュタインが提唱する議会闘争と改良に主力を置く修正主義が台頭し、カール＝リープクネヒトやローザ＝ルクセンブルクなどが反発した。
- 3 ロシア社会民主労働党は1898年にプレハーノフ・レーニンを中心に結成し、マルクス主義を唱えたが、政府の激しい弾圧を受けて実質的な活動はできなかった。その後1903年に活動が開始されたが、まもなくプレハーノフらが指導したメンシェヴィキと、マルクス主義に基づくレーニン指導のボリシェヴィキとに分裂した。

設問8 1 アイルランドはケルト系。

- 2 1828年、審査法は「成立」ではなく「廃止」された。審査法は、王政復古で即位したチャールズ2世がカトリック政策を行ったことに対して、1673年、国教徒主体の議会によって制定された。
- 3 審査法廃止・カトリック教徒解放法の成立に活躍したのは、イギリスの社会主義者ロバート＝オーウェンではなく、アイルランドの民族運動家・政治家のオコンネル。

設問9 B 「ジョゼフ」＝チェンバレンが正しい。アイルランド自治法に反対し自由党を離れて自由統一党を設立、南アフリカ戦争時には植民地大臣であった。ネヴィル＝チェンバレンはナチス＝ドイツへの宥和政策を進めた1937～40年のイギリス首相。

C カリカットではなくカルカッタ。

### 【3】

#### 解答

- A ウィーン B グレート＝トレック C ロスチャイルド D ジンバブエ  
E ゴードン F チャーチル G 1902 H テイルピット I アパルトヘイト

#### 解説

南アフリカ戦争に関する問題。細かい語句も散見されるが、難関私立大志望者であれば押えておいてほしいレベル。リード文はアフリカとイギリスとの関係を中心に、当時の国際関係をコンパクトにまとめてるので、空欄前後の箇所以外にもしっかりと目を通しておこう。

A 1814～15年のウィーン会議の結果結ばれたウィーン議定書によって、オランダはイギリスにケープ植民地のほか、セイロン島も割譲した。

- B やや細かい。ケープ植民地へのイギリス人の植民が盛んになり、圧迫された先住民が北方へ新天地を求めて移動したことを、“グレート＝トレック”と呼ぶ。
- C ロスチャイルド家はヨーロッパ最大のユダヤ系金融資本家の一族で、帝国主義下のイギリスにも大きな影響を与えた。本間に述べられている南アフリカへの進出のほか、ディズレイリ首相のスエズ運河株買収の資金を調達したことも併せて押さえておきたい。
- D ローデシアは現在のジンバブエ共和国とザンビア共和国を合わせた領域をさす。ジンバブエには「石の家」と呼ばれる壮大な石造遺跡が残っており、11～18世紀に建造されたと考えられている。
- E イギリスの軍人ゴードンは、19世紀後半には常勝軍を指揮して太平天国の乱鎮圧に活躍し、のちにスーダンの知事・総督を歴任したが、マフディーの乱で戦死した。
- F イギリスの保守党指導者であるチャーチルは、1940年5月にネヴィル＝チエンバレンと交替して首相（任1940～45, 51～55）に就任した。
- G 南アフリカ戦争は、ブル人のゲリラ戦による抵抗によって長期化し、莫大な戦費と兵力を費やして1902年に講和に至った。
- H やや細かい。ドイツの海軍軍人であるティルピツは、大規模な艦隊建造計画を主導し、第一次世界大戦中には無制限潜水艦作戦を遂行した。
- I イギリス自治領時代の南アフリカ連邦で、1950年前後に強化された有色人種差別と有色人種隔離政策をアパルトヘイトと称する。1991年にデクラーク政権により法的に撤廃された。



W3M  
早慶大世界史



会員番号	
氏名	

不許複製